

【出題の意図】

バーンアウトは 1970 年代から知見が蓄積されている看護職にはなじみ深い概念である。ヒューマン・サービス従事者の需要が高まるとともに、より高度で複雑な支援技術が必要となる中で、看護職が質の高いサービスを提供し続けるために、バーンアウトに対する対処は引き続き重要である。看護職が我がこととして捉えやすい概念について、自らの経験や価値観のみからではなく、根拠を踏まえて自らの考えを論じることができるかどうか、大学院教育における学修力としての論理的思考力を問う。

問 1. 2 文章の読解力と要約力を問う。

問 3. バーンアウトの回避について、課題文の内容を活用しながら、ヒューマン・サービス従事者という条件を踏まえ、自らの考えを論理的に述べる力を問う。